

## 『統合科学』投稿規程

2026年3月16日改定

1. 本誌に掲載される原稿は未発表で、ヘルスシステムに関する統合科学的研究を論じたもの、もしくはヘルスシステムに関連する諸分野の専門的な内容を扱うものとする。ただし、扱う内容が関連分野のものであっても専門性の高い場合には、専門外の人々にも理解できるように配慮されている必要がある。
2. 投稿原稿の類別は、論文、研究動向・レビュー、書評、活動報告とし、著者が類別を指定する。
3. 投稿原稿は原則として和文ないし英文で書き、分量は、注と図表を含めて、論文は25,000字以内(英文は10,000-15,000words)、研究動向・レビューは15,000字以内(英文は5,000-7,000words)、書評・活動報告は10,000字以内とする。冒頭に和文表題および英文表題を付けること。また、論文に限り300語以内の欧文のアブストラクトをネイティブチェックの上で付けること。
4. 既に他誌、学内紀要等に発表したものを投稿すること、また既に英文の論文として発表されたものを和文として投稿することおよびその逆の行為は、いずれも二重投稿に該当するものとして禁止する。掲載後に多重発表・投稿、特定不正行為(捏造、改ざん、盗用)が発覚した場合には、掲載を取り消しその旨を本誌で公告する。
5. オーサーシップの在り方や二重投稿の禁止については日本学術会議の「科学研究における健全性の向上について」(2015年3月6日)に、特定不正行為(捏造、改ざん、盗用)については「国立大学法人岡山大学における研究活動に係る不正行為への対応に関する規程」(岡大規程第20号)にそれぞれ準ずることとする。
6. 倫理的配慮を必要とする内容を扱う場合は、どのような倫理的配慮がなされたかを明記すること。倫理審査委員会の承認を得たうえで行った研究であれば、その承認を受けた倫理審査委員会名、承認年月日、承認番号を明記する。また、利益相反の有無についても明記すること。
7. 投稿原稿の採否は、『統合科学』編集委員会が査読者2名を定め、その査読者の意見を元に編集長(editor)が採否を決定する。
8. 本誌に掲載された文書の著作権は、原則として岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科に帰属するものとし、岡山大学学術成果リポジトリに掲載されるものとする。ただし、著者自身による利用については原則として異議を申立てない。
9. 本誌への投稿締切りは11月末日とし翌年3月末発行という編集スケジュールとしている。投稿は随時受け付けているが上記スケジュールに留意すること。

## 『統合科学』原稿執筆の手引き

2023年10月11日改正

1. 『統合科学』へ投稿する原稿は、本手引きに従って作成すること。

1.1. 原稿は、A4サイズの論文誌に印刷される。  
本文の文字数は、25文字×49行の2段組とする。  
各部のマージン(余白)は表1の通り。

各部	マージン
用紙上端から本文	30 mm
用紙下端から本文	15 mm
用紙左端から本文	20 mm
用紙右端から本文	20 mm
段組中央	10 mm

1.2. 文字数・大きさは、原則として表2の通りとする。原稿フォーマットもあるので、原稿執筆の際の参考とすること。

2. 題目など

和文原稿の場合は、和文題目と英文題目を併記すること。英文原稿の場合は英文題目のみを記載すること。

文字	書体	ポイント
和文表題	ゴシック体	16.5
和文著者名	明朝体	14.0
英文表題 (和文原稿)	<b>Times (Bold)</b>	12.0
英文著者名 (和文原稿)	Times	12.0
英文表題 (英文原稿)	<b>Times (Bold)</b>	14.0
英文著者名 (英文原稿)	Times	12.0
英文要旨	Times	9.0
キーワード	Times	9.0
章・節見出し	ゴシック体	9.0
	<b>Times (Bold)</b>	
項見出し	明朝体・Times	9.0
図等見出し	明朝体・Times	9.0
本文	明朝体・Times	9.0
参考文献	明朝体・Times	8.0
著者紹介氏名	ゴシック体	9.0
	<b>Times (Bold)</b>	
著者会員種別	明朝体・Times	9.0
著者略歴	明朝体・Times	8.0
脚注	明朝体・Times	8.0

3. 著者

和文原稿の場合は、和文著者名と英文著者名を併記すること。英文原稿の場合は英文著者名のみを記載すること。英文著者名は、名姓の順とし、それぞれ先頭の文字のみを大文字にすること。

4. 著者所属

和文原稿の場合は、和文著者所属と英文著者所属を併記すること。英文原稿の場合は英文著者所属のみを記載すること。記載には、該当著者の右肩に\*1, \*2, などをつけ、第1頁左下に脚注としてそれぞれ記載すること。

5. 英文要旨

論文の場合は、その内容を簡潔にまとめた300語以内の英文要旨(Abstract)をネイティブチェックの上で記載すること(『統合科学』投稿規程3参照)。

6. キーワード

論文の場合は、内容を表すキーワードを5個以内で記載すること。和文原稿の場合は和文でも良い。

7. 本文

和文原稿の文章は「である」調の口語体とし、特に英文もしくはカタカナ書きを必要とする部分以外は、現代かなづかいによる漢字かなまじり文とすること。外国の固有名詞は原則として原語綴りとする。

## 8. 用語

学術用語は原則として文部省編の「学術用語集」、または JIS で制定されたものを用いること。

## 9. 見出し

本文の区分けはポイントシステムによる記号を用いて、章見出し「1., 2.,…」, 節見出し「1.1, 1.2,…」, 項見出し「1.1.1, 1.1.2,…」などとすること。付録(和文) Appendix(英文)は参考文献の後につけ、章見出しを無番号で「付録」「Appendix」とする。必要ならば節見出しとして「付録 1., 付録 2.,…」などを用いて区分けすること。章見出しは 2 行分を使用し、中央配置(センタリング)すること。

## 10. 文章の区切り

文章の区切りにはピリオド「.」または句点「。」を、句の区切りにはコンマ「,」または読点「、」を用い、1 字分をあてること。どちらの方式を用いても良いが、「ピリオド・コンマ」、あるいは「句点・読点」に統一すること。なお、各段落の最初は 1 字分をあけること。

## 11. 数式など

### 11.1. 単位・数値

単位は原則として国際単位系(SI)を用い、数値はアラビア数字を使用すること。

### 11.2. 数式

原則として、すべての数式に式番をつけること。式番は通し番号とし、(1), (2), …のように表す。参照する場合は(1)式, (2)式, …, Eq(1), Eq(2), …とする。分数式は、式として独立したものは

$$\frac{a+b}{c+全体} \quad (1)$$

のように改行して書くが、本文と同じ行の場合には(a+b)/(c+全体)のように書くこと。

## 12. 定理・定義・補題

定義、定理、補題などの番号は通し番号とし、【定義 1】、【定理 1】、【補題 1】…のように表すこと。参照する場合は括弧を取り、定義 1、定理 1 などとする。

## 13. 図・表

13.1. 図、表の番号は、それぞれ、図 1、図 2、…、Fig.1, Fig.2, …, 表 1, 表 2, …, Table1, Table2, …のように通し番号とすること。写真は図として扱う。

13.2. 見出し：図の場合にはその下に、表の場合にはその上に、番号とともに見出しを入れること。

13.3. 引用：本文中で図、表を引用する場合には、和文原稿の場合、それぞれ、図 1、図 2、…、表 1、表 2、…とし、英文原稿の場合は、それぞれ、Fig.1, Fig.2, …, Table1, Table2, …とする。

13.4. サイズ：図、表の刷り上がり寸法は、横幅 8cm 以内(片段、325 字相当)と横幅 17cm 以内(両段、625 字相当)の二通りとする。図や表中の文字は適切な大ききで、本文との整

合性に注意すること。

13.5. カラー印刷を希望の場合は、費用は原則執筆者負担とする。あらかじめ編集委員会に相談すること。

14. 脚注：脚注は本文の一部として作成すること。

15. 引用：脚注の引用は引用箇所の肩に 1,2,3・・・とつけること。

脚注は、本文末に境界を表す横線を引き、その下に記載すること。なお、脚注も原稿の枠内に書くこと。

16. 参考文献：参考文献は本文の末尾にまとめて記載すること。記載方法は原則として科学技術振興機構の『参考文献の役割と書き方:科学技術情報流通技術基準（SIST）の活用』（[https://jipsti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST\\_booklet2011.pdf](https://jipsti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST_booklet2011.pdf)）の「参考文献の書き方」に従うこと。

雑誌の場合は、著者名、論文名、誌名、出版西暦年、巻数、号数、はじめの頁-おわりの頁を、単行本の場合には、著者(または編者)名、書名(編者)、出版者、出版西暦年、総ページ数の順に記載すること。

(記載例)

松原茂樹, 加藤芳秀, 江川誠二. 英文作成支援ツールとしての用例 文検索システム ESCORT. 情報管理. 2008, vol. 51, no. 4, p. 251-259. [和文誌の事例]

岩坂泰信. 特集, 東アジア環境共生系: 黄砂は何を運んでくるのか. 科学. 2008, vol. 78, no. 7, p. 729-735. [和文誌特集記事の事例]

Foster, Jonathan. Collaborative information seeking and retrieval. Annual Review of Information Science and Technology. 2006, vol. 40, p. 329-356. [欧文、年次報告書の事例]

Lee, Jeffrey E.; Fusco, Marnie L.; Hessel, Ann J. et al. Structure of the Ebola virus glycoprotein bound to an antibody from a human survivor. Nature. 2008, vol. 454, no. 7201, p. 177-182. [欧文誌の事例]

渋谷 雄, 高橋 信, 加藤博一: 21 世紀の学会のあり方について; ヒューマンインタフェース学会誌, Vol. 1, No. 1, p. 21-24 (1999).

松原茂樹, 加藤芳秀, 江川誠二. 英文作成支援ツールとしての用例 文検索システム ESCORT. 情報管理. 2008, vol. 51, no. 4, p. 251-259, doi:10.1241/johokanri.51.251. <http://joi.jlc.jst.go.jp/JST.JSTAGE/johokanri/51.251>, (参照 2008-08-15). [オンラインジャーナルの事例]

坂村健. グローバルスタンダードと国家戦略. NTT 出版, 2005, 272p., (日本の<現代>, 第9巻), ISBN4-7571-4100-9. [単行本の事例]

Frenkel, D.; Smit, B. Understanding Molecular Simulation: From Algorithms to Applications. 2nd ed., Academic Press, 2002, 664 p. [洋書単行本の事例]

村主朋英. “医学分野における動向”. 電子メディアは研究を変えるのか. 倉田敬子編. 勁草書房, 2000, p. 59-97. [論文集 (単行本) 中の論文の事例]

Ito, Kenji. “The geist in the institute: The production of quantum physicists in 1930s Japan”. Pedagogy and the Practice of Science. Kaiser, D., ed. MIT Press, 2005, p. 151-184. [英文論文集 (単行本) 中の論文の事例]

## 17. 投稿時に必要な書類の作成と送付

### 17.1. 提出物

投稿時には, 論文原稿の PDF ファイルを提出すること. また, 論文原稿には査読用の補助資料を添付することができる. ただし, 補助資料がなくても論文の本質的な内容が理解できることを前提として, 後述の条件に従って提出すること.

### 17.2. 電子メールによる送付

電子メールで送付する場合には, メールの表題を「統合科学投稿論文」とし, 投稿原稿の PDF ファイルを, メールの添付ファイルとして編集委員会まで送付すること. 本紙を郵送する必要はない. 添付ファイルの合計サイズが 10MB を超える場合は, パスワード付きのファイル共有サイトなどにアップロードし, ダウンロードの為のアドレスとパスワードを電子メールで送ること.

## 18. 採録決定後に必要な書類の作成と提出

採録が決定した場合には, 最終原稿の PDF ファイルと Word ファイルを編集委員会に 17.2 と同様の方法で提出すること.

#### 【編集後記】

今年度も無事に『統合科学』第6号を発行することができました。投稿いただいた方々、査読・編集にご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

『統合科学』創刊時より編集委員長の任にありましたが本号発行をもって交代となります。至らない編集者でしたが、編集委員会のメンバーはもとより、多くの方々に支えられながらなんとか続けることができました。この場を借りて感謝申し上げます。次号より新たな編集委員会のもとでより良い学術雑誌として発展していくことを願っています。

今年4月でヘルスシステム統合科学研究科設置8周年迎えます。つまりはあと2年(2028年4月)で10周年を迎えるということです。そこで勝手ながら第8号(2028年3月発行)にて設置10周年を特集する記事の掲載を企画しています。次期編集委員長にはこのことも含めてしっかりと引き継いでいきたいと考えています。みなさんご期待ください。  
(吉葉)

統合科学 第6号  
ISSN2436-3227  
発行日 2026年3月31日  
発行者 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科  
〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中3-1-1  
編集：『統合科学』編集委員会  
吉葉恭行(委員長)・早川徹・紀和利彦・松尾俊彦・藤井大児  
印刷所 株式会社iプランニング KOHWA